

<祈りのすすめ>

わたしはお前たちの先祖をエジプトの地から導き出したとき、わたしは焼き尽くす献げ物やいけにえについて、語ったことも命じたこともない。むしろ、わたしは次のことを彼らに命じた。「わたしの声に聞き従え。そうすれば、わたしはあなたたちの神となり、あなたたちはわたしの民となる。わたしが命じる道にのみ歩むならば、あなたたちは幸いを得る。」(エレミヤ書 第7章22, 23節)

主なる神を礼拝するために神殿に集ってくるユダの人々に、預言者エレミヤが語りかけている一連の言葉の一節です。他の預言者も厳しい祭儀批判を行ないました。その理由は、たんに「心がこもっていない」形式主義だという類いの批判ではありません。「正義を洪水のように、恵みの業を大河のように、尽きることなく流れさせよ」(アモス5:24)とあるように、倫理的律法が求める社会的正義と公正、愛と憐みを無視しているゆえでした。エレミヤの場合もその点は共通ですが、他の預言者らの枠を突破して、祭儀そのものを神は命じていないと断言するほどの極端な主張となっています。

それは当然ながら深刻な疑問を引き起こします。祭儀の規定が、出エジプト記やレビ記などに神から命じられたものとして、歴然と存在しているからです。それで、ここでの献げ物や犠牲は自由な任意のもので祭儀全体ではないとか、モーセは倫理的戒めを与えたが祭儀は彼の死後に定められたとか、エレミヤはシナイ契約に立っていたなどの説明が試みられてきました。しかし、どれも全面的に納得できるものではありません。

それらの中で、もっとも妥当と思われるのは、同じ命令文でも十戒などの倫理的律法と祭儀規定とはその性格が異なる、との区別です。すなわち、倫理的律法が「神の戒め(声、言葉)」であり、それが

厳密な意味での「命令」「要求」であり最優先されるべきであって、他方、祭儀規定は神の「提供」「指示」という従属的な性格であるとの示唆です(P.D.ミラー)。たしかに、「主が喜ばれるのは、焼き尽くす献げ物やいけにえであろうか。むしろ、主の御声に聞き従うことではないか」(サムエル記上15:22a)とあるように、聖書に一貫している区別といえます。

罪の奴隷から解放してくださった神と契約を結び、倫理的律法に示された神の声に聞き従うことが幸いを得る道です。しかし、人は日々罪を犯してしまう現実があります。そうしたときに、悔い改めて立ち返る手立てを神ご自身が提供してくださったのが祭儀的规定だということです。罪によって分断された神と人、人と人との交わりが、贖われ、赦され、償われ、和解と感謝へと導く手立てを示すのが祭儀です。

その祭儀を、自分たちの罪を悔い改めず、隠ぺいし、正当化するために悪用するならどうでしょうか。戦争などの政治的、社会的罪過をごまかし、美化するために宗教的祭儀が利用されてきました。そのときに良心と信教の自由が侵害されるのです。

主イエスがご自身の罪なき命を捧げてくださったのは、わたしたちの罪を贖い、神の赦しと和解を与え、わたしたちがただ神の戒めにのみ従い、永遠の命にあずかるためです。

<祈り> 全能の父なる神、あなたの御心にさからい、隣人を愛さない罪と悪とからわたしたちを守ってください。罪を犯したとき、あなたのみ前に赦しを求め、悔い改める柔らかい素直な心をお与えください。あなたが恵み深い神であることを信じます。主イエスの御名によって祈ります。アーメン。

(古賀清敬、こが・きよたか; 大会靖国神社問題特別委員、北海道中会教師)

新シリーズ『いま なぜ 大嘗祭か』を読みなおす（20）

川越 弘（沖縄伝道所牧師）

Q18 教会では天皇の戦争責任問題をどのように考えますか？

A 一人の人間の生涯は罪人として神の前に問われます。それはどのような人間に対しても同じです。その人が民衆を治める特別な責任を持っていたのであれば当然その責任が問われるのです。戦争責任を考えると、それと関わったすべての人が、自らの責任を認識し、その過去の責任を引き受ける決意がなければなりません。しかし、あの戦争の責任をそれに関わったすべての者が問われることで、当時の最高責任者であった天皇の責任が解消されるわけではありません。むしろ個人が自己の戦争の責任を、特に加害者としての責任を真剣に追及し、明らかにしようとするならば、天皇の戦争責任を問わずにはすまされないのです。

わが国はアジア近隣諸国を侵略し、民衆の生活を破壊し、二千万人を上回る生命を奪いました。この事実を前に、わたしたちは単に個人の戦争体験や内面的な領域に限られた反省ということにとどまってはなりません。この悲劇に至った戦争構造全体を根源的に問い、これを繰り返すことが決しておこらないよう努力することが求められています。

ですから教会は問いただします。天皇には、まずひとりの人間であるゆえの責任があります。日本の最高責任者であり、軍国主義体制の頂点にいた者としての責任があります。たとえ当時現人神とされていたとしても、その責任が問われないと法的に規定されていても、また連合国が東京裁判でその責任を問わないことにしたとしても、この問題は神と人との前にあいまいにされてはなりません。

政府は、いまなお残されている戦後責任を果たさなければなりません。また新天皇は、前天皇の戦争責任を道義的には継承する者として、アジア近隣諸国をはじめすべての人々と接することが必要です。キリスト者が天皇の戦争責任を問わずにすませるならば、それは新たな天皇の神格化に与することとなるでしょう。

新 Q18-1 「天皇の戦争責任」の神学的論点はどういうことでしょうか？

A 「天皇の戦争責任」については、上記に記されておりますので、次に問われるべきことはその神学的論点です。「わたしのほかに神とすべからず」。これは信仰者の大前提です。真の神を神とする時、真の人間性が育てられます。偶像礼拝は人間を奴隷化します。天皇を現人神として洗脳されていた日本人は、アジア近隣諸国を侵略し、民衆の生活を破壊し、2000万人を上回る生命を奪い、日本人300万人以上が命を落としました。偶像礼拝によって人間性が消失していたからです。今の日本人も、戦争への反省が乏しく本質的にそれとほとんど変わっておりません。

新 Q18-2 キリストの体としての共同体という論点も欠けていたのではないのでしょうか？

A 日本の教会は天皇制と信仰の戦いをしてきましたが、足りないものでした。その体質は今も抜

け切れておりません。教会はキリストの体です。信仰の共同体です。キリスト個人と私個人だけが結びつくことはあり得ないのです。私たちの信仰と救いは、キリストの体の中に入れられているからです。このキリストの共同体は、戦時中の教会が挫折した罪責を背負っております。「体の一部分が痛めば、私の痛みとなる」からです。75年経た今日の教会が大きな痛みをもって受け継ぐことは、キリストにある一つの共同体だからです。

新 Q18-3 教会の宣教は、神から問われている戦争の罪責性をこの世に語ることではないのでしょうか？

A 教会はこの国の侵略戦争の罪責性を語ることに、教会自身が戦争に同意し加担し、積極的に推し進めてきた罪を深く認識することです。私たちは、人よりも神から罪責の根本を問われております。この根本の問題を、この世の人々に語ることです。これが教会の宣教です。ここから日本人の人間性の回復がもたらされるからです。

< 誌上協議会 >

第 786 号 (2020 年 7 月号) に掲載された小塩海平委員の小論考に対し、札幌豊平教会の武藏学長老から寄せられた批判意見を第 788 号 (2020 年 8 月号) に掲載致しました。以下に武藏長老に対する小塩委員からの応答を紹介いたします。当委員会はこの問題に対する指針を提示する意図はなく、あくまでも参考として下さい。

武藏長老の疑問への応答

東京告白教会長老 小塩海平

拙稿に対して、医療現場の第一線に立つ方からの貴重なご意見を寄せていただき、心より感謝申し上げます。さらに議論が深まることを願って、以下に若干の応答をさせていただきたいと思います。

1) 私は「時と所を定め、牧師と長老が礼拝を守ってオンラインで配信し、訪問者があれば対応する方策は決して教会の自殺行為などではない」との主張に同意します。ただ拙稿では教会が礼拝をやめることを自殺行為と書いたのであって、礼拝が守られているならば、オンライン配信の有無にかかわらず教会の自殺行為であるとは考えません。この点は、誤解しないでいただきたいと思います。

2) 拙稿の要点の 1 つは、「あらゆる人に対して、教会が門戸を開いているべき」ということでした。そもそも礼拝 (レイトウルギア) とはレイ (民) のエルゴン (つとめ) であり、民が召し集められるからこそ教会 (エクレスシア) が成立することを確認しなければならないと思います。この点については「牧師と長老が礼拝を守ってオンラインで配信」する礼拝が、レイ (民) の召集といえるかどうか、さらに吟味が必要だと思います。つまり、民の召集は、牧師と長老のみに限定されてはならないと思うのです。

3) 「礼拝を守ることと感染リスクを減じることは同時に希求されなければならない」という主張にも同意します。しかし、「自分を愛するようにあなたの隣人を愛せよ」という戒めの履行が、「牧師と長老が礼拝を守ってオンラインで配信」する礼拝様式に帰結するかどうかは疑問に思います。牧師と長老を隣人の別枠で扱ってよいのでしょうか。また「隣人を愛すること」は、隣人の感染リスクを減じるだけでなく、隣人の礼拝を守る権利が損なわれないようにすることをも要請するのではないのでしょうか。

4) 私は、教会 (エクレスシア) の礼拝 (レイトウルギア) においては、牧師と長老だけでなくすべての民に召集があることを宣言した上で、それにどのように応答するかは、召集を受け取ったものに委ねられるべきではないかと考えます。その上で、招きに応えられない人のためにどのような配慮をなすべきかを、小会が祈って考え、知恵を出し合うことが必要なのだと思います。すでに各教会で工夫され、取り組まれていることと思いますが、それはオンライン配信にもなり得るでしょうし、説教原稿や録音資料の配布になるかもしれません。このようなことは、コロナ禍の如何にかかわらず、さまざまな事情で礼拝に集えない者たちに対する小会のつとめだと思います。

< 大会靖国神社問題特別委員会の評価と展望 > (以下の文章は、大会に提出した報告の一部です)

継続して検討してきた日本キリスト教会の戦争責任告白については、第 69 回大会に「日本キリスト教会の戦争罪責告白」として建議案提出したが、議長預かりとなっている。その後、第 68 回九州中会 (2020 年 3 月) では「戦争罪責の悔い改めの宣言」が決議され、復活節礼拝で中会内のすべての教会・伝道所の講壇から宣言を朗読することも決議された (コロナ禍のため 8 月第三主日に実施)。こうした動きを含めて委員会としての協議をできないままであるが、他の誰でもなくわたしたち日本キリスト教会自身の、神と隣人に対する戦争罪責告白が欠落してきたのではないかとの共通認識は変わっていない。

考察すべき課題の一つに、すでに圧倒的多数が戦争の直接的体験者ではないという事実がある。それには、後代の者の後付けの批判になり、あるいは遠慮がちな間接的表現で済ませてしまうという誘惑がつきまとう。しかし、「わたしたちの罪と父祖の悪行のために、エルサレムもあなたの民も、近隣の民すべてから嘲られています」(ダニエル 9 : 16 b) と捕囚民ダニエルが先祖の罪をあくまで自分自身の罪としても告白したように、神の前における世代間の責任継続性 (出 20 章 5、6 節、マタイ 23 : 29 - 33、他) の自覚を聖書は促している。また戦後のわたしたちの世代自身の悔い改めてこなかった責任、それを靖国神社国家護持阻止や在日大韓基督教会や韓国・台湾教会との交わりの中で知らされてきた恵みに感謝しつつ、この根本課題に

取り組みたい。

沖縄の辺野古新基地建設は、軟弱地盤が確認され膨大な追加費用と歳月がかかると明らかになってもなお安倍政権は撤回しようとしなない。これは、突然のイージス・アショア停止と比して沖縄県の住民がいかに差別されているかを露骨に示している。米軍基地でコロナ感染者が多発しても、その実態すら知らされないで感染の脅威にさらされたままである。

日本で唯一地上戦がなされた沖縄戦の実態を知ること、また今なお差別的扱いを受けている現状を変えるべく苦闘している人々の声を聴くことは、日本全体が再び戦争へと向かわないための必須条件である。

<ヤスクニ問題関連ニュース>

*印コメントは報告者；古賀清敬

○ 広島県知事、核抑止論を否定

湯崎英彦知事が今年の8月6日の広島平和式典で行った平和宣言の一部です。

「なぜ、我々広島・長崎の核兵器廃絶に対する思いはこうも長い間裏切られ続けるのでしょうか。それは、核による抑止力を信じ、依存している人々と国々があるからです。しかしながら、絶対破壊の恐怖が敵攻撃を抑止するという核抑止論は、あくまでも人々が共同で信じている「考え」であって、すなわち「虚構」にすぎません。万有引力の法則や原子の周期表といった宇宙の真理とは全く異なるものです。それどころか、今や多くの事実がその有効性を否定しています。一方で、核兵器の破壊力は、アインシュタインの理論どおりまさに宇宙の真理であり、ひとたび爆発すればそのエネルギーから逃れられる存在は何一つありません。したがって、そこから逃れるためには、決して爆発しないよう、つまり、物理的に廃絶するしかないのです。幸いなことに、核抑止は人間の作った虚構であるが故に、皆が信じなくなれば意味がなくなります。つまり、人間の手で変えることができるのです。」

*安倍首相（当時）はじめ参加者にどう納得してもらえるか、懇切に語りかける言葉ですね。

○ 大嘗祭のコメ収穫、知事出席は「政教分離違反」京都府に住民監査請求

昨秋に行われた天皇即位に伴う「大嘗祭（だいじょうさい）」の諸儀式に、京都府の西脇隆俊知事らが公務で参列したのは憲法で定める政教分離の原則に反するとして、府内の大学教員や宗教関係者ら12人が21日、公費約46万円の返還を求めて府監査委員に住民監査請求を行った。・・・請求人代表の菱木政晴さん（70）は「天皇代替わりの儀式は違憲行為のオンパレー

ド。それを明らかにすることは、日本国憲法の中で暮らす者の責務だ」と述べている。…（京都：8，21）

○ 安倍首相が靖国神社に参拝 「退任を英霊にご報告」

16日に内閣総辞職した安倍晋三前首相が19日、東京・九段の靖国神社を参拝した。自身の公式ツイッターやフェイスブックなどで明らかにした。公式ツイッターには「今月16日に内閣総理大臣を退任したことをご英霊にご報告いたしました」と投稿した。安倍前首相の参拝は、首相在任中の2013年12月26日以来、約7年ぶり。…（朝日：9，19）

*これまで控えていたのはウソでした、私は嘘つきですと居直る意趣返しもさながら、戦没者（軍人・軍属）への追悼というより、「退任報告」としているのに要注意。戦没者を「英霊」と祀り上げるだけでなく、就退任を報告すべき対象にまで変容させ、靖国神社の位置を高めようとしている。天皇が伊勢神宮に奉告するのに模しているのでは。

○ 「平穏無事」願い込めて 函館西高書道部が奉納揮毫

国連が定める「国際平和デー」の21日、函館護国神社（大橋幸生宮司）で函館西高校書道部（顧問・天満谷貴之教諭）による世界平和と新型コロナウイルス終息を願う奉納揮毫（きごう）が行われた。…国内外で書道など和文化を通じて、地域活性化や平和思想の発信に取り組む「和プロジェクト TAISHI」（愛知）が同日全国一斉に行った取り組みで、今年で4回目。全国48の護国神社と靖国神社（東京）、広島、長崎の平和公園を会場に、各地の書家と全国47校の高校書道部員が揮毫に臨んだ。この日は揮毫前に部員らが参拝し、玉串を納めた。…（函館：9，22）

<編集後記>新たな靖国・天皇制の刷り込みが着々と行われている/「国民」がやたらと頻用され、外国籍住民は関心外/大坂なおみ選手の人種差別抗議に賛意を送るも在日外国人差別への反省にはつながらない。賛意のツイッターを批判に屈し削除した国会議員も。差別より権力維持が大事らしい。(K生)

789号ヤスクニ通信 2020年10月11日
発行 日本キリスト教会靖国神社問題特別委員会
発行人 古賀清敬 編集 小塩海平
発行 芳賀繁浩 (日本キリスト教会大会事務所)